

勝山市総合教育会議議事録

日時 令和7年3月26日（水）午前9時～10時10分

場所 勝山市役所 第2・3委員会室

1. 開会
2. 市長あいさつ

○市長

平素より市の教育行政にご尽力いただき、この場を借りてお礼申し上げます。

中学校の建設に関しては、山場を超え4月から建設に向けて、ソフト面では学校再編に伴うスクールバス問題も取り組んでいけるような状況が整った。これも教育委員の皆様方にしっかりとご協議いただいたおかげである。

第6次勝山市総合計画の中では、勝山市の将来像を見据えながら、その中で教育はどうあるべきかを市長部局もしっかり考えていく。今回の3月定例会で採択された、18歳までの切れ目のない経済的支援の一貫として、これまでの子育て支援策を超えた、子どもたちの育ちを支援、学びややる気を応援する資金として応援金をスタートする。裕福な財政状況ではないが、無駄を省き、将来を見据えて子どもたち自身の将来についてリソースを集中させていきたい考えを持っている。

今後、中央公園や教育会館の改修、こどもまんなか社会の実現を目指したこども計画について推進を図っていく。

機構改革の中で市長部局の方へ移行した、社会教育や文化行政、スポーツに関する現状について、本日は担当課長がいるのでご意見やご質問があればお答えする。

3. 協議事項

- (1) 教育に関する大綱（令和3年度改訂）の取組状況等について

○事務局

資料1に関して、今年度の各取組に対して委員の皆様からご意見などはございませんでしょうか。

1 学校教育

○委員

校務支援システムの導入などにより教職員の負担軽減を図っているとのことだが、今後また一層図っていただきたいと思うが、どのような方策を考えているか教えていただきたい。

○教育総務課

現在はシーフォース（C4th）などを使って学校と保護者間の連絡事項等を行っている。

今後は行事や校時を見直し教職員の勤務負担の軽減を図っていく。今年度実施したプール学習の見直しでは、プール学習をスイミング施設で実施し、プールの管理や指導の面で教員の負担軽減となった。今後も継続していきたい。文書軽減やペーパーレスについても校長会と協力しながらやっていきたい。今年新聞等で騒がれている時間外勤務 80 時間超えというのは勝山市ではゼロであったので、その方向で継続していく。

○委員

勝山高校の定員割れがあったが、こういったことは全国各地の進学校で起こっていると聞いた。福井県は私立高校の授業料無償化を数年前から行っているので、全国に先駆けてそういう状況が起こっているのだと感じる。

勝山高校の魅力度アップは当然ながら、高校の魅力だけを語っていても生徒を呼び込むことはできない。今後は地域間の競争になってくる。どの市に魅力があるかという点を考えて選ぶことになる。地域みらい留学が始まるが、県外から勝山市を選んでもらうために市の魅力をさらに上げていかないといけないと思う。魅力という点では勝山市は恵まれており、教育環境や観光面から見て、県内でも手厚い物を感じる。市の魅力をどんどん PR することで、勝山高校への定員割れ対策につながると思う。勝山高校存続のためにも市の魅力アップを図ってほしい。

○市長

私立高校の無償化が公立高校に与える影響は大きく、県内の状況は厳しくなってきている。勝山高校では探求学習が順調に進んでおり、中学校との一体的な教育の形が取れていること、また今後大学との連携も十分考えられる。今後、中高大の連携をさらに進めていく中で、市全体の魅力をアップしていくことを県教育委員会と一緒に取り組んでいきたい。

今年高校に入学したのは約 160 人で、現在の出生数から見ても、今より苦しくなるのは間違いない。県立高校の再編などの議論になってくると思うので、時期を見逃さず、勝山高校の存続に向けて議論していきたい。

現在、市の観光客の伸びは前年の 140%ほどアップとこれまでの最高となっているが、その中で宿泊客数が伸び悩んでいる。今後、宿泊施設の誘致などを含めて、市全体の活性化や賑やかしを行っていきたい。そういった中で勝山市の教育は特に高校、中学校の教育の外側からのバックアップできる体制を取り、しっかりと頑張っていきたい。

○委員

中学校の部活動が地域移行されることについて、教育委員会の方で苦労していると思う。スポーツ協会や競技団体の調整や協議、指導者の育成や確保など色んな問題がある。以前は教育委員会にスポーツ部局があったが、現在は市長部局に移管された。時間的にもタイトなところがあるので、いろんな面で市長部局の支援をお願いしたい。

○市長

市の機構改革の中で、スポーツ部門を健康部門と統合した。学校教育と学校体育との連携はこれまでと同様にしっかりと対応していかないといけないと思っている。部活動の地

域移行については、勝山市スポーツ協会の会長ともよく話をしており、教育委員会と協議しながら2年後の新中学校の開校時期にあわせて取り組んでいきたい。

○健康体育課

地域移行については2年前から検討が始まり、今年度は教育委員会と健康体育課、勝山市スポーツ協会の競技団体でワーキングを行い、今後の方針について協議した。しっかりと結果を出せるよう進めていきたい。

○委員

ふるさと教育については小学校から取り組まれているが、勝山高校の探究科の授業を見させていただいて、今の高校生はあまりふるさと教育を盛んにやっていなかったのかなという印象を受けた。今の小学校の子たちは、高校生よりもっと詳しく語ることができ、文化財にも触れていることを感じた。これを継続していただき、市外に出たときに違いを発見して勝山市の良さを再発見してもらえようような教育をしていただきたい。

中高生の遊び場が不足していると感じる。部活動も大切だが、余暇の時間を楽しめるような充実できるような場所、スポットが増えると良い。観光者向けは車じゃないと巡れないので、市民が楽しめ中高生がワイワイと活気あふれて過ごせるような場をもっと増やしてほしい。

○市長

こども会館については、県の屋内遊技場の補助金を活用するところから議論がスタートしており、雪でも屋内で遊べる所を整備するというイメージが先行している。未就学や小学校の児童センター的な役割も必要だが、それと同じくらい中高生への配慮も重要だと感じている。福井市を比べても文化的格差を感じている中高生が多いようで、中央公園界隈の改修にあたっては、中高生が寂しい思いをしないように十分配慮したい。

2 生涯学習・地域活動

○意見なし

3 歴史・文化

○委員

旧木下家住宅は修復が終了して活用が図られているとあるが、その後の利用状況を教えてください。

○市長

利用者などの数字的なことは後ほど担当課長から報告する。旧木下家住宅では先日の日曜日にジャズコンサートがあり、白井淳夫さんの演奏や浦上さんのタップダンスで大変盛り上がり上がっていた。主催しているのは受託団体から任されている「プロジェクトK」という40代前後の女性を中心にしたグループであった。去年は同じくプロジェクトKが市の70周年のイベント助成を利用し、B'zのものまねの方のライブを開催するなど、旧木下家住

宅は地域で活用されている。こうしたイベントでは3分の1から半分くらいは市外からのお客さんだと見受けられるので、当初心配していたよりもしっかりと地域の一つの拠り所として活用が図られていると思う。

○商工文化課

旧木下家住宅の利用者としては令和3年度に821人、令和4年度で735人、令和5年度で1006人の利用があり、令和6年度では1,000人くらいを見込んでいる。

○委員

施設の維持として囲炉裏を炊いたりするのをシルバー人材センターに委託していたと思うが、今は地域の方に依頼しているのか。

○商工文化課

現在もシルバー人材センターへ委託しているが、地域の方も協力いただいている。来年度からは雪囲いを地域に委託する。

○委員

文化財は保存だけでなく活用することが求められている。旧木下家住宅だけでなく例えば平泉寺の発掘や三室遺跡の整備促進など、他の文化財の活用についても今後さらに力を入れていただきたい。

○市長

機構改革の中で文化財を教育委員会から市長部局へ移したのは、文化財の活用に取り組んでいく中での一つの手段であったと思う。平泉寺のまほろばやはたや記念館ゆめおーれ、旧木下家住宅、三室の縄文遺跡資料館など、複数の文化財の施設があるが活用に取り組みながら進めている。ゆめおーれについては市内唯一のミュージアムとして、指定管理にしっかり予算を投入しながら、市の近代歴史を学べる場として位置づけ、今後は図書館との連携も図っていききたい。まほろばは地元と連携しながら、特に今年5月の33年御開帳に向けて実のあるものにしていききたい。三室の縄文遺跡資料館は今年エアコン設置を予定しており、夏でも快適に利用いただけるよう整備を図る。旧木下家住宅は活用への資金的な支援をしていきたいと考えている。文化財を商工や企画分門と一緒に取り組むことにより、市全体で活用を一緒に考えていきたい。

○委員

勝山城博物館では5月11日に県の俳句大会の開催が予定されてる。当日は左義長ばやし保存会の協力を得て、県内外の俳人たちに勝山左義長ばやしが披露される。こうした博物館等でも様々な催しが開催されると良いと思う。

ゆめおーれでは昨年は地元出身の音楽家たちによる夢コンが開催されたと思うが、地域で育った音楽家を市で招聘して、コンサートを開くのはとても良かった。今年も早速4月にあるようだが、音楽家を地域で育てていくというのが素晴らしいと思った。また、以前、教育会館で雲龍さんのカジュアルなコンサートがあった。演奏家たちが気軽にやりたい時にできる雰囲気、またちょっと訪れた人たちがそういったことに出会えるような文化活動が広がっていくと良い。

ただ、イベントが多すぎて、素晴らしいイベントなのに集客が少なくて残念に思うことがあるので、PR の仕方を工夫して盛り上げてほしい。

○市長

広報を中心にイベント等の活動情報の共有を図っていききたい。庁内でも自分の課で完結せず、部局を横断しながら共有して、市民へアピールできるような形をとりたい。

今年の 20 歳のつどいでは音楽家を呼ばなかったもので、来年はまた呼びたい。

勝山市は以前実施していたアスペン音楽祭の一つのレガシーとして、質の高い音楽家、セミプロの方が相当いらっしゃる。仕事をしながら音楽活動が続けられるような支援をすることにより、文化的な厚みが出ていると思うので、音楽家の方たちへの支援は政策的に進めていきたいと思っている。

勝山城博物館については、教育長と一緒に理事の一人として参画している。その中でいろいろ思うこともあるので、しっかり持続可能なミュージアムとしてできるように考えていきたい。そういう意味では、まほろばやゆめおーれ、旧木下家住宅、縄文資料館の他にもブータンミュージアムなど、そういった文化施設などを周知・連携しながら文化施策を進めていきたい。

○委員

市にはいろいろなことをしてほしいが、市の職員が非常に多忙になりすぎるという心配がある。プロジェクト K のように、大変意欲のある民間の人たちを活用するシステムがあるといい。県立大学の恐竜学部の学生が来て住んでくれるようになると、その子たちも含めた、勝山を考えてくれる頭脳を増やすのは非常に重要なことだと思う。市の職員数が増え、業務も非常に多い。少しでもこうした頭脳集団を増やすことを考えて、いいアイデアを出して実践してくれる人を増やしていくことが大事だと思う。

○政策幹

これまで、まちづくりやイベント運営に興味があるけど携わったことがない人たちを見い出すことが難しかった。ちょいチャレ応援事業やクラファン応援事業を継続して、そういった方たちの活躍の場を支援し、その方たちが盛り上がって、プロジェクト K のような団体の育成につながると良いと考えている。

県立大学の恐竜学部は今年度入学者は 34 名であった。勝山キャンパスでの学習は 2 年次からであるが、大学でアンケートをとったところ、2 年生になったら勝山市に住みたい方は 86%いた。今後意識は変わってくと思うが、夏頃に再度アンケートをとって把握したい。大学生に向けたイベントや大学生にもちょいチャレ応援事業に取り組んでもらうなど、若い方を含めた市内のまちづくり広がっていくことを期待している。

○委員

先日、県立大学の学生が恐竜博物館で体験学習をされたというニュースを見た。女性学生が、学部を卒業したら観光事業に従事して貢献したいと答えていた。すごく感心した。これまで恐竜博物館には観光客が来るだけだったが、このまちに住みたいとか、起業したい人が増えるような転換期に来ていると感じた。勝山市もそれに乗り遅れないよう、しっかりと環境整備をお願いしたい。

○市長

人口減少の要因の一つである 18 歳人口の大量転出という状況は今後も止まることはない。一方で、大学生 34 人という数字は、今の出生数からみると桁違いの数字だと思う。委員がおっしゃるように転換期であり、こうした状況をしっかりと踏まえながら、これまであきらめていた若者への施策を、チャンスをしっかり掴んで、多方面での市の活性化につなげていきたい。

○委員

勝山は太古の昔から縄文など、これほどの時代のものがむき出しになり、歴史を保有している土地はそれほどあるものではなく、とても魅力的な土地だと思う。一方で、市民の生活では歴史に関心を持ちにくい。そういった方にも関心を持ってもらうような、例えば LINE でコラムを発信したり、目で見えるような、教養として知っていただけるような工夫・PR を考えていただきたい。

○商工文化課

市民の方に関心を持っていただける大きなきっかけとして、平泉寺の御開帳イベントがある。3 日間のイベントだが、先行して、勝山城博物館、まほろば、ゆめおーれで同時に特別企画展をスタートさせる。御開帳をきっかけに知る機会をとっていききたい。LINE のコラムは面白いと思ったので、また考えていききたい。

○委員

SNS で僧兵募集がバズっているという話を聞いたが、本当に申込は増えているのか。

○商工文化課

SNS から盛り上がって、3 時間後に定員が埋まった。応募の半分くらいが女性の方だと聞いている。

○市長

市では致命的に SNS の活用が弱いと感じている。僧兵行列は定員に達しないだろうという見込みだったが、SNS であっという間に埋まった。SNS の活用については今後強化していきたい。担当部署の仕事に限らず市職員全体での取り組みなども考えていきたい。

高齢者の学びの場であるさわやか大学では、一番人気の講座は歴史講座である。高齢者の学びも大切だが、若い方にも知っていただくために、若い方が生きている世界を意識して発信していく必要がある。ニーズのない世界で PR しても効果がないことが分かったので、今後しっかりと PR していきたい。

健康スポーツ

○なし

その他

○委員

図書館の施設を更新される場合は、2階のソファなどリニューアルを考えていくと良いのでは。カバーがめくれていたり、デザインの的にも古さを感じるようになってきた。今は誰もいない空間だが、自分たちが高校生の時にはよく利用していたので、過ごしやすくなると良い。

ゆめお一れコンサートの際、客席が固い丸いすだったもので、一緒に参加した友人からは長い時間座っていると背もたれが欲しいという声があった。

以前から要望していたが、チャマゴンとチャマリんに子どもをもうけていただけるとうれしい。

○未来創造課

図書館のイスについては予算要望しているがなかなか難しい。職員が手製でカバーをしたりしている。学生が勉強をするような部屋の机については令和7年度に更新させていただく予定である。少しでも皆さまが過ごしやすい空間を作っていきたいと思っている。

○商工文化課

ゆめお一れのイスについては、現在の指定管理者である NPO の理事長はイベントをすごく上手にされる方で、これまでコンサートのような使い方は少なかったもので、こうした整備に関してもあまりスポットが当たっていなかった。今後相談して考えていきたい。

○市長

図書館は一見きれいだが、出来てから年月が経過し古さが目立つようになってきた。レイアウトの変更や、2階にも本を並べてくつろげるようになるとよい。こども会館にも中高生が楽しめるような場所を整備していくので、そういったところと連携してリニューアルについて検討していきたい。

ゆめお一れについてはホールが狭いので、イスを大きくすると収容数が減るのではと心配している。喫茶店がなくなり、あの空間の活用なども図りながら、広場や図書館との一体感、そして中央公園やこども会館との一体感など、全体の演出を考えていきたい。

チャマゴンチャマリンの家族については、今回ご意見をいただいたということで、今後検討していきたい。

○委員

市の人口減少対策について、自然動態の増加は見込めないもので、社会動態の減少をいかに少なくするか、移住定住を増やす方策が必要だと思う。先日の定例教育委員会で、新年度当初予算の説明を受け、115 応援金は移住にもつながる施策だと聞き、色々な取組みを考えているのだと思った。

その中で、東京圏の大学で学んだ人が福井県へ就職活動で来た際の旅費を負担するという新規事業があった。なぜ東京圏なのかと思ったが、国の施策として、地方からの転出者が東京に一極集中だからということであった。勝山市にとっては、学生が東京圏だけに進

学しているわけではなく、中京圏や関東圏に進学している子も多いと思う。市独自で、東京圏以外の子に対しても県内の就職活動に対する支援ができないか。

○市長

委員のおっしゃるとおりだと思う。市としては保育料の完全無償化など、子育て支援策は正直行きついたと思っている。その上で 115 応援金をスタートさせて、新年度は 115 プロジェクトとして、各部署でバラバラに行っている施策を連携させ、ばらまきのイメージを持たれている 115 応援金について、どのように活用することで転入を増やせるのかを真剣に考えている。移住政策として都会からの U ターン取組みや、全ての部署の職員が説明できるような体制、SNS を使った情報発信をプロジェクトという形で昇華させたいと思っている。

○政策幹

参考だが、昨日、市の地域経済振興会議があり、その中で勝山市や福井県を PR していくターゲットはどこかという話になった。地域経済振興会議のメンバーの意見では、新幹線が来たと言っても、東京での福井県の知名度はまだ低い。関西圏や中京圏では、関東圏に比べると福井県の知名度は高いので、企業誘致や移住誘致にしても、まずはそこをターゲットに進めた方が良いという意見があったので、それも含めて取り組んでいきたい。

○委員

新中学校のスクールバスについて、地域の方から本当にできるのかという不安の声をよく聞く。確かにバスの運転手不足も言われているので見通しはどうか。

○教育総務課

バスについては、この後の定例教育委員会の方で詳しく説明するが、検討は進めているところである。

○市長

教育委員会と市長部局の連携が不十分なところはあるが、私どもは高校生も大人も一緒に利用すること、そして昼のデマンド化をすることをセットで実現可能な取組みを進めている。

4. 報告事項

(1) 勝山市こども計画の策定について

5 閉会あいさつ

○委員

昨日の夕方のニュースを見ていたら、「観音さまのおすすめ」の様子が放送されており、市長や教育長が参加された様子も映っていた。日曜日は北郷のライブで市長とお会い

したが、土日を問わず地域のイベントに参加されておりお忙しいのだと感じた。でも地域の方々は市長に来てもらうだけでうれしいと思う。

新中学校建設は業者がようやく決まり安堵している。これまで教育委員として話し合いに参加させていただき、ようやく工事が始まることに感慨深く思っている。長山の桜の植樹もあったと聞き、2年後の風景を想像するだけで楽しい気持ちである。今後大変なこともあるが、市民の理解を得て進めていただきたい。